

編集・発行
障害福祉サービス事業所

あるむ

〒242-0003
大和市林間2-20-26
TEL.046-275-9520
FAX.046-275-9529

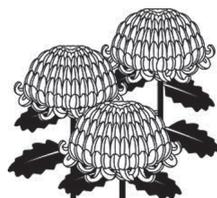
あるむの詩

2013年3月発行
特別臨時号
(通巻68号)
NPO法人
共働あるむ

堀場信昭さんを偲んで



堀場信昭氏追悼号



追悼 堀場信昭

一九八四年十一月、大和市西鶴間の木造アパートを借りて、自己資金二五〇万円で各種中古印刷設備を購入し、「共働作業所あるむ印刷工房」を、たった一人で立ち上げた。いや正確には妻・律子と二人で、と書くべきだろう。

多くの障害のある人たちが根強い差別と偏見の中で「在宅」を強いられていたが、こうした「作業所」が全国で少しずつ生まれてきていた。翌八五年四月、実習生として参加していたK君が正式に入所し、文字通り一人から二人へとあるむは歩みを始めた。

今、花開いているのか、それともまだつぼみなのか。しかし、枯れずにいることは確かである。あるむにとつて堀場信昭を「種蒔く人」と名付けてもいいと思う。いや、別の言い方をさせていた、だから、「水を飲むとき、井戸を掘った人の労苦に想いを馳せる」ということでもあろうか。

一九九一年三月、「精神薄弱者福祉的就労援助事業所」としての申請を市に提出するも、県より地域作業所としての認可をめざすよう指導をうける。翌九二年五月に大和市から「障害者地域作業所」の認可を受け、「障害者地域作業所あるむ」に名称変更。すでに障害者所員が一〇名に達していた。

時代を振り返れば、九五年に「精神保健法」が「精

神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改められ（「治療」の対象から「福祉」の対象へ）、九八年には「精神薄弱の用語の整理のための関係法律の一部を改正する法律」（「精神薄弱者」を「知的障害者」に改める。九九年には日本精神薄弱児愛護協会は日本知的障害者福祉協会に改称）。そして二〇〇〇年には交通バリアフリー法（高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律）、ハートビル法（高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律）が制定され、その二つの法律を統合した「バリアフリー新法」が制定された二〇〇六年には、障害福祉の画時代的な障害者自立支援法が施行された。

二〇〇一年七月発行の「あるむの詩」に「来し方行く末」と題して、次のような一文が掲載された。

「当時『あるむ創立前後』は、ノーマライゼーションもバリアフリーも「それ！なんのこと？」という時代でした。知的障害を精薄と呼び、愛護協会というのもありました。「職員を先生と呼ばない」「ちゃん付けで利用者（こんな言葉もありません）」「園生」とか呼んでいたところもあります。」を呼ばないなどということが大真面目で語られた時代でした。ですから、あるむの「理念」や運営方法はそれ自体既成の「障害者」福祉に対するアンチ・テーゼでもあったようです。でも、時代は大きく変わったのも確かです。「理念」などと、肩に力を入れていた時代

は終ったとも言えます。”

地域作業所として認可(補助金受託)は、障害の有無・種類・程度を問わず全員が所員である「共働」運営から、所員・職員の分離と、所員職員全員による共働事業委員会体制への移行でもあり、いわばあるむの歴史的大転換でもあった。

翌九三年には、県央障害作連会長に就任し、神奈川県央地区での地域作業所活動全体を担うとともに、あるむも所員十五名体制となり、手狭になった西鶴間から南林間へ拡張移転も果たした。もちろん、あるむの特色である「印刷」の技術革新への取り組みはおろか経営面での奮闘も特記されねばなるまい。

しかし九七年頃から体調を崩し、九八年には一時休職、同年復帰するも再度休職となり、一九九九年三月、あるむを正式に退職するに至った。以降、闘病・療養生活を送りつつ、あるむのNPO法人化、自立支援法に則った「障害福祉サービス事業所」への発展を見守ってきた。

二〇一二年十一月十四日、急逝。享年五十八歳。

道半ばで倒れたことの無念さは余りあるにせよ、理念と理想を掲げ、文字通り全身全霊を懸けての生涯であったとも言える。合掌

(文責・神保欣世)

堀場信昭を偲んで

堀場 敦

あるむの創設者である堀場信昭は私の兄で、1984年11月に西鶴間にアパートの1階を借りて「共働事業所あるむ印刷工房」を創設しました。西鶴間の店舗兼印刷所で、当時は写植機を使用していたので暗室(台所)もあり、中はとても狭く、作業するのは大変だったことと思います。私はその当時、ある製造メーカーの電算室に勤務しておりましたが、「ラッキーと思うこと」に書いた早川氏ともう一人の方と独立してソフト開発を行うようになりました。



1984年11月スタートした木造アパート



1985年5月 ただいま～!

客先の支払いが悪くなってしまったこともあり、解散して別々の会社に移りました。その移った会社で印刷業務を請け負うことになり、印刷屋さんとの仲介役として私が抜擢され、兄のいる「あるむ」と密接に関わるようになりました。

「あるむ」が南林間に移転し、大和市から認可を受け「障害者地域作業所あるむ」となって数年後に兄は体調を崩しあるむを退所しました。体調を崩し始めたころはアルコール依存症で2回ほど入院してお酒をやめることはできたようですが、うつ病を患いました。症状が悪く日中は自宅に人がいないこともあって、しばらく実家に来ていたことがあり、となりの部屋にいて叫んでいたことがあったことを記憶しています。今考えれば苦しみと闘っていたのでしよう。病院を変わったり、薬が変わったりで症状が良くなったり悪くなったりの繰り返しでしたが、亡くなる前はだいぶよくなっているようで、倒れた当日は実家でお茶を飲み、自宅に帰る途中にバイクで倒れ（事故ではありません）、北里大学の救命救急センターに運ばれましたが、意識は戻らず2日後に

息を引き取ってしまいました。いまだに原因はわかっていません。

兄が体調を崩して「あるむ」を去って、現理事長の神保さんに所長をしていたおりました。私が会社を辞めソフト開発で独立しましたが、印刷の仕事は続いていたので「あるむ」とのかかわりも続いており、週に2回はボランティアとして協力させていた。週に2回はボランティアとして協力となり、2010年4月に「障害福祉サービスマネジメントあるむ」となるのを機に所長（管理者）という大役を仰せつかりました。

昨年夏にあるフォーラムで「あるむ」について紹介する機会があり、歴史を振り返ることになりました。その時に大和市の認可を受けるまでの苦労を見ることができました。来年「あるむ」は30周年となります。兄が築いてくれたこの「あるむ」が発展できるように頑張っていきたいと思っています。

皆様には引き続きご協力いただけますよう、よろしくお願いいたします。

堀場信昭氏を偲んで

川 誠司

又発起人でもある堀場信昭所長とは、仕事の上では長い付き合いとなりました。

堀場所長と初めて会ったのは、今から30年程前のことです。

私がまだ、ふきのとう舎の園生で印刷室（その頃印刷部から、後に印刷科へ部署名変更）でオレンジ色の用紙にオフセット印刷機で印刷をしている所を右横に立つて

私と、あるむの創設者であり、

見ました。

すると用紙には何とあるむの前身、あるむ印刷工房の大きな文字が見えたのです。

それを見て、私は大きな感動を得たと思いました。

横で、少しだけ見ていた私は、ワクワクして、あそこでやってみたいなあ？でも、佐瀬さん（園長）にその事を、話をしたら、なんて言うかなあと思ひ、不安もありました。

私は、すぐ佐瀬園長に：「実習をさせて下さい。」と頼みました。

その頃私は、多分まだ園生だから、ダメかなあと、少し諦めて軽作業をしていましたが諦める事は出来ませんでした。

暫くして、もう一度園長に頼んでみる事にしました。すると：

佐瀬園長が：

「君の指導員の山岸安志先生と神沼由起夫先生（後に退舎し保育園へ）に聞いてみようそれから決めましょう。」と……

佐瀬園長から回答が返ってききました。

その結果、ふきのとう舎を退舎する1ヶ月前の2月から3月迄の2ヶ月間、あるむへ実習に通う事になり、私にとつて初めての職場体験実習が始まりました。

ふきのとう舎から実習先へ向かっている時に私は、2ヶ月間に及ぶ長期の実習は、大変だけど、ちゃんとやれば、うまくいくと思ひました。

そして実習先に着いて、すぐ真っ先に目に入ったのは、歯車式の写植機でモリサワ製・MCPⅡ型の手動機が正面に置いてあり、右横には製図版がありました。

隣の部屋に目をやると、そこには中古の印刷機が2台置いてありました。

まず正面には、アドタックから無償で借り受けているハマダ700CD型（A3判用）印刷機・通称Ⅱハマダスターがあり、右側にはなんと、トーコー810L型のオフセット印刷機もありました。

一通り部屋の中を見た後、実習を始める前に私から自己紹介をしました。

その後、堀場所長の自己紹介に移りました。

「堀場です。ここに、ある物（写植機・印刷機など）は全て使える様になります。」

その時私は、動かせる様になれば、オール・ラウンド・プレーヤー（何でも出来る人）という事かなあ？と思ひました。

後で、分かったのですが、隣の部屋の奥には、中古でPS版用（アルミ製版用）の製版機が置いてありました。

その後さつそく実習が始まって、まもなく堀場所長が「自分の名前を打ってみよう」と言ったので、手動機の前に座り、操作を教わりながら、一文字、一文字打つて見ることにしました。

暗室ですが、トイレの真下に



り流し台と兼用で使っていました。

現像をする時は、一人で入ると余裕でしたが、二人で入ると狭かったです。

その後現像から始まり・定着そして水洗迄の手順も一緒に入って、教えてくれました。

勿論、現像液と定着液の作り方も教えてもらいました。

暫くして、2月から始まった職場体験実習も3月いっぱい終了し、同年（1985年）翌月4月1日付で、ふきのとう舎を退舎し実習先だったあるむへ移り、所員としては第一号になりました。

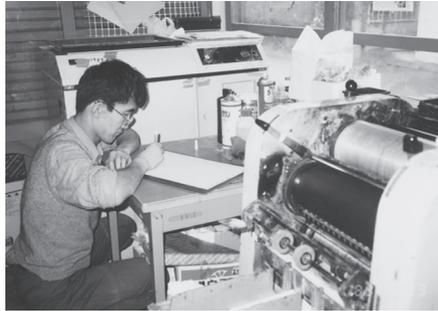
4月に入った私は、最初まだ実習の延長戦の様な感じがしていました。

と、思っていた時のこと、何か？印刷する物があつたのか、版（当時は紙版が多かつた）を印刷機にくつつけてから、810L型の操作を最初は横で見て次からは実際に動かして見る事にしました。

この印刷機なら動かし易いので、自分にも動かせそうだと思

ました。

最後になります、私にとつて初代堀場信昭所長は、掛け替えのない人だと思えました。ありがとうございます。



右手前がトーコー 810 L 型
オフセット印刷機（西鶴間時代）

残念でした

四宮 広隆

堀場さんのことは、前のあるむでは、長く一緒にいたので残念でした。

堀場信昭さんを偲んで

伊藤 悦子

私があるむで働くきっかけをくださったのが、堀場信昭さんでした。

職業訓練校の印刷科に在籍していたときに、講師として印刷を教えにきていた堀場さんに、「1年ぐらい一般企業に勤めたあと、あるむで働いてみないか？」と声をかけられたことが始まりでした。その時は、印刷会社に内定していませんので、「まあ、縁があればお世話になるかも」ぐらいにしか思っていませんでした。しかし、半年もしないうちに印刷会社での仕事に音を上げ、結局あるむでお世話になることになりました。こうして、94年11月から非常勤としてあるむで働き始めました。といつても、まともに仕事ができるわけがなく、堀場さんにはずいぶん迷惑をかけたと思います。なんせ、あるむで働き始めたときは20歳ぐらいでしたから。

私が働き始めた頃の堀場さんは、いつも忙しそうで、印刷機のことを聞きたくても、あるむにいない、ということがよくありました。もしかしたら、この頃から少しずつ無理を重ねていったのかもしれないですね。

私が入って数年したころ、ハマダという印刷機の後継機としてドイツ製のハイデルベルグGTOを購入しよう、という話になりました。この機械は、一千万もする印刷機で、あるむでこのような高額の印刷機を購入する意味があるのか？と問題になった機械です。購入にあたり、問題点が大きく二つあったように思います。まず、一つ目は資金をどうするのか、二つ目は印刷機を使いこなせるのか、です。資金は、堀場さんの実家を担保に、神保さんが連帯保証人となりローンを組むことでクリアできました。二つ目の問題である、印刷機をつかいこなせるのか？については、とりあえず当面は職員である私が覚えてから、その後所員につかってもらうということ

クリア。こうして、ハイデルは購入されることになったのです。

ドイツ製ハイデルベルグ社の印刷機



しかし、この頃から、堀場さんの体調はかなり悪くなっていたように思います。あるむを休むことが多くなったからです。ですが、当時の私は堀場さんがどのような状況におかれていたのか、まったく想像ができません。「調子が悪い」ということが、どのような意味を持つのか、理解できませんでした。そのせいで、きつと堀場さんにきつい言葉や、態度をたくさんつけてしまい、堀場さんを追い詰めたと思います。

99年に堀場さんは正式に退職されました。あるむの創設者であり、

私をあるむに誘ってくれた堀場さんが退職したのに、自分がこのまま働き続けることが許されるのだろうか。だけど、私が辞めたところで、堀場さんの体調が戻るわけでもなく、私も再就職の宛てがあるわけでもなし。そんなことを考えながら、私は働き続けました。それに、ハイデルのローンが終わるまでは、絶対辞めるわけにいかない、という思いもありました。

堀場さんが、なぜ無理をしてまで「ハイデルベルグ製」の印刷機を購入にこだわったか。それはきつと、あるむが「障害者施設」ではなく、「障害者も働いている印刷屋」であることを、形として表したかったのではないかと感じたのかもしれない。ですから、私ができる範囲のことはやらなくては。当時はそんな風に思っていました。

堀場さんが退職された後は、神保さんが所長となり、堀場さんの意向に配慮しつつ、時代の流れを見据えながら先導してくれました。2010年には、堀場信昭

さんの弟である、堀場敦現所長が誕生しました。堀場敦・所長には大変つらい選択をさせてしまったかも知れませんが、でも、過去を知る私にとっては、本当に安心して所長をお願いできる人であり、所長を引き受けてくれたことを、とても感謝しています。

堀場さんの葬儀で、堀場さんの古くからのご友人である牧師さまは、「そこに存在し続けることの大切さ」についてお話しになりました。そこに存在し続ける、その難しさ、大切さに気づかされました。堀場信昭さんが作り上げようとしたあるむと、今のあるむでは、大きな違いがあるように最近強く感じるのです。それは、あるむが施設しつつあることです。補助金をもらい、サーブスとして福祉を提供する。昔のあるむでは、考えられなかったことです。ですが中身はどうであれ、『あるむ』として、そこに存在し、障害者を受け入れていることは、かわらない事実です。30年、これだけは変わっていません。

私の記憶にある堀場さんは、いつも少し困ったような優しい笑顔なのです。最後にあったのは、昨年何月だったか…。そのとき、堀場さんの成長されたお子さんの話や、うちの息子の話をしましたが、体調は万全ではない感じでしたが、調子がよいときはバイクに乗っている、という話をしたような気がします。

こんな突然お別れがくるなんて、思ってもみませんでした。残念でなりません。今の私があるのは堀場さん、あなたのおかげです。なのに、何も恩返しすることができませんでした。ごめんなさい。本当に感謝しています。あなたに会えて、よかったです。ありがとうございます。

堀場信昭さんを偲んで

原 あすか

堀場信昭さんは弱者に優しくとても温かい方でした。あるむで

は主に機械を回してまじめな方でした。よく難しい漢字を教えていただきました。いろいろとお世話になりました。そしてありがとうございます。ご冥福を祈り申し上げます。

「あるむ」を最初に

立ち上げた人

井島 康人

僕は、「あるむ」を最初に立ち上げた堀場信昭さんが亡くなったことを聞いた時最初、「エーまさか」と思いました。

僕が堀場さんと会ったのは「あるむ」がまだ、南林間五丁目にあるときでした。その時に、堀場さんは、パソコンの仕事をしていたことを覚えていきます。

それから何年くらいたったのでしょうか。「あるむ」が今度、林間にきたときに堀場さんがいる日、僕のいる場所にきて「誰だか分かる？」と聞いたので僕は声が

出ませんでした。

母にそのことをいようと母も、「五月に総会で会ったばかりなのに」と驚いていました。

堀場さんありがとうございます。ごさいました。

これからはゆつくりとお眠り下さい。



追悼

三上 尚吾

堀場信昭さんとは、1回だけ話をしたことがあります。それは見学に来たときです。

そのときは、もう病気をしていた前所長の神保欣世さんと交代する様なことを言っていました。

入所時は、神保欣世さんに所長が交代していました。

所員で堀場信昭さんと直接話をした人の境目の所員であります。なので、堀場信昭さんとの思い出は、一切ありませんね。

堀場信昭さんを偲ぶ

藤田 マスエ

私がひとり印刷業界で起業した時から、月10万円にも満たない収入で障害者の方と一緒に働いている「堀場さん」ということで名前だけは知っていました。鶴間で運営されておられたころから、ほんの少しの取引をさせていただくようになってお会いした堀場さんは、知的な風貌の少し小柄でにこやかに応対して下さる方でした。

私があるむの仲間に入れていただいたのは14年前の事です。体調を崩された堀場さんと入れ替わるように仲間に入れていただいた形になります。そのころは現在の神保理事長が所員みなさんを指導しながら仕事を進め、少ない職員体制で八面六臂の働きをされていました。

堀場さんは高い志を持たれた方で、多方面で活躍されておられたと話に聞いていますが、一緒に話したり仕事をしたことはありませんでしたので、堀場さんのある

むや福祉への「思い」を伺う機会はないままでした。堀場さんがお元氣であれば私はあるむの仲間に入ることはなかったのかもしれないと考えると申し訳ないような複雑な心境になります。けれどもあるむを立ち上げて下さったお陰で、私たちはたくさんの幸せをいただきました。本当にありがとうございます。

あるむを退職されてから、奥様の大きな愛とご尽力でお子様たちは立派に成長され、また堀場さんも病身でありながらご家族を大切になさっておられたという事を伺いました。ようやく体調が回復に向かっていた時期に急逝されたとお聞きし一層心が痛みます。ただ、ご自身の志で立ち上げられたあるむを現理事長の神保さんが引き受け時代の波を先取りするように乗り切って現在のあるむにしたこと、その後をご兄弟の堀場敦さんが所長としてあるむを率いているのを見届けてくださったこと、たくさんの花で飾られたお顔が安らかなように見えたことなどがせめてもの私の気

持ちの救いになっていきます。

お疲れ様でした。どうぞゆつくりとお休みになって、ご家族やあるむを見守ってください。合掌
追記

堀場さんの奥様、お子様たちにお会いして、直接お礼を申し上げたい気持ちでいっぱいです。

堀場信昭氏を偲んで

片瀬 勝寿

あるむ創設者である堀場信昭氏の訃報に接し、ただただ悲しいの一言に尽きる。私が、あるむに初めて通所した時には、其処に堀場信昭氏の姿は無く、共に仕事が出来なかつた事が、残念でならない。現在はNPO法人となった「あるむ」の立ち上げに、どんな思いで臨んだのか等、あるむの始まり、歴史を一度直接ご本人からお聞きしたかった。改めて、堀場信昭氏を偲ぶと共に、心よりご冥福をお祈りします。

21世紀のテーマ

「自然に生きたい」

田中 コウメイ

2000年12月末、私は家の大掃除をしながら私なりの21世紀テーマをくよくよと考えていました。すると私が卒業した短期大学のアルバムの各自のメッセージで同じクラスの女優・秋本祐希そっくりの幸子が書いた「自然に生きたい」を思い出しました。幸子とはただ挨拶を交わすだけの仲でした。あの子と「自然に生きたい」の意味を語り合ってみたかったです。何かためになることを知り得たかもしれません。いまの私にとつて「自然に生きたい」はアルプスの少女ハイジの「アルムの丘」しか思い浮かびません。10代の時から「アルムの丘」のように長閑な場所に定住したい願望がありました。15年前、私はノルウエーの北部の町・アルタに行きました。あの町は「アルムの丘」みたいです。

長閑でした。心の中でノルウエーに定住したいと良からぬ考えを持っていました。こうして私なりの21世紀に相応しいテーマを「自然に生きたい」にしたのです。しかし、このテーマは世の中の「悪」が横行してなかなか実現しにくいものです。

2007年秋、私は「NPO・共働あるむ」という印刷屋に入所しました。あれからもう5年半が経ちます。いろんな年齢層に囲まれて人間味というものを知り得ました。一昨年頃、私は「NPO・共働あるむ」の発起人・堀場信昭様を見かけました。昨年11月にお亡くなりになられた堀場信昭様は「あるむ」の名前の由来が「アルプスの少女ハイジがいる」「アルムの丘」にクララという歩行困難の障がい者が来て、ハイジとペーターと一緒に生活することによって足がよくなって歩けるようになった」と仰っていましたね。つまり「アルムの丘」はまさに何もかも良い方向に導く場所だったのでしよう。また私が言う「自然に生

きたい」の意味が込められていたのでしょうか？だから堀場信昭様はこのエピソードをもとにNPOの印刷屋の名前を「あるむ」と称したのですね。ぜひとも堀場信昭様と「自然に生きたい」の意味を語り合ってみたかったです。私や皆さんにとって何かためになることを知り得たのでしょうか。

今後とも「NPO・共働あるむ」は私が言うように「自然に生きたい」をテーマにしようではないですか。

「冥福をお祈りします」

匿名

堀場信昭さんとは一緒に仕事を
する機会はありませんでしたが、ど
うかご冥福をお祈り申し上げます。



ありがとうございました

伊津井 暁彦

あるむを設立してくれた、堀場
信昭さん、ありがとうございます
た。

堀場信昭さんを偲んで

中村 俊一

そんなに関わりがないのですが
あるむの創設者だと聞き、とても
残念な気持ちになりました。

「堀場信昭さんを偲んで」

折田 泉一郎

お会いした事は一度もありま
せんが、私が今、あるむに籍を置
かせて頂けるのは、あるむを創業
した堀場信昭さんのお蔭です。
縁と言う言葉がよく使われます

が、お会いできなかったけれども
これもまた縁であると思っており
ます。輪廻転生を経て来世でお会
いできればと思っております。
心よりご冥福を申し上げます。

安らかに眠りください

宮沢 周士

あるむの末席に名を連ねる私の
ような新米職員（といっても早三
年が経とうとしています）にと
つて、堀場信昭さんの人となり
を窺い知る機会は今まで決して
多くはありませんでした。

総会などで実際にお会いした時
も、ご挨拶させていた、たく程度
だったのが今となっては本当に悔
やまれます。30年に及ぶあるむの
時間の中で、まるで教科書の中に
出てくる歴史上の人物のような存
在にさえなるとなく感じられて、
お話しするにも少し気が引けてい
たのかもしれない。

そんな自分との距離を一気に縮

め、初めてと言って良いくらいに堀場さんのお人柄とその功績について深く思い知ることが出来たのは、葬儀に参列した時だった気がします。

葬儀は故人である堀場さんへの敬意と感謝に溢れた、とても優しくあたたかい空気に包まれていたように感じました。とりわけ荒井章さんが読まれた弔辞の中で「あるむ」という名称の由来について明かされた件には、強く心を打たれました。そして自分の中でも「あるむ」の名が今まで以上に特別で愛着の湧く、誇り高きものとなりました。

「意志を受け継ぐ」などというおこがましい事は言えませんが、永遠に絶えることなく続くリレーの一走者としてバトンを落とさないうように…そんな心持ちで（でも気負わずに）これからもあるむで頑張ります…そのことを、献花の時にお伝えしました。少しでも届きますようにと願いながら…。

堀場信昭さん、これまで本当にご苦勞様でした。そしてどうぞ安らかにお眠りください。

ご冥福をお祈りします

安藤 大佑

堀場信昭さんのご冥福をお祈り申し上げます。

堀場信昭さんを偲んで

清水 正太郎

創設者である信昭さんに会ったことがありませんが信昭さんに一言、あるむを創設して下さいありがとうございますとございます。信昭さんがあるむを創設したことで今の私がありますので感謝を申し上げます、そして、ご冥福をお祈り申し上げます。

堀場信昭さんを偲んで

日下 位江

堀場敦さんのお兄様、信昭さん

があるむの創設者であることは風の便りで知っていました。私は、長年病気に苦しみ、あるむと出会った事で本当に救われたので、機会があったら、是非信昭さんに直接お礼を申し上げたいと思っていました。とても残念に思っています。

きつと私のように、あるむによって救われた人は、大勢いると思います。本当にありがとうございます。そしてお疲れ様でした。どうか安らかにお眠りください。

あるむの創始者、 堀場信昭氏を偲んで

矢崎 由紀

私は直接お会いした事はありませんが、「あるむ」がなかったら今頃どうしているんだろうと考えさせられます。

一度お会い（挨拶程度でも）したかったです。

ご冥福をお祈り申し上げます。